

三宅島の火山活動解説資料（平成 27 年 7 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過しています。また、火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 9 月以降は 1 日あたり 500 トン以下で経過しています。

火口内では噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、山頂火口内及び主火孔から 500m 以内では火山灰噴出に警戒してください。また、火山ガスの放出が継続していることから、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるかと予想される地域では警戒してください。

平成 27 年 6 月 5 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げました。その後、予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴煙、火山ガスなど表面現象の状況（図 1、図 4 - ~、表 1）

山頂火口からの噴煙の高さは、火口縁上 200m 以下で経過しています。

21 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり平均 400 トン（前回 5 月 13 日：平均 200 トン）で、やや少ない状態でした。

- ・火口内の状況（図 3）

14 日に実施した現地調査では、山頂火口南側内壁に位置する主火孔内部に硫黄の昇華物が付着しているのを確認しました。また、主火孔及びその周辺で引き続き高温領域¹⁾が認められ、前回の観測（2015 年 5 月 22 日）と比べて、火口内の地形及び高温領域の分布に特段の変化は認められませんでした。

- ・地震や微動の発生状況（図 4 - ~、図 6、表 1）

火山性地震は少ない状態で経過しています。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特段の変化は認められません。

火山性微動は観測されていません。

- ・地殻変動の状況（図 4 - ~、図 5、図 8）

GNSS²⁾連続観測によると、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013 年頃から停滞しています。

島内の長距離の基線で 2006 年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続しています。

1) 赤外熱映像装置により観測しています。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の温度よりも低く測定される場合があります。

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 27 年 8 月分）は平成 27 年 9 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び東京都のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2万5千分1地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



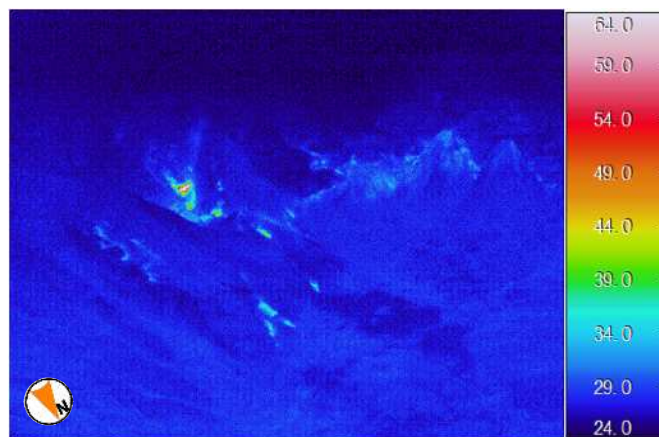
図 1 三宅島 山頂火口からの噴煙の状況
（7 月 30 日、小手倉遠望カメラによる）



図 2 三宅島 図 3 の撮影場所と撮影方向



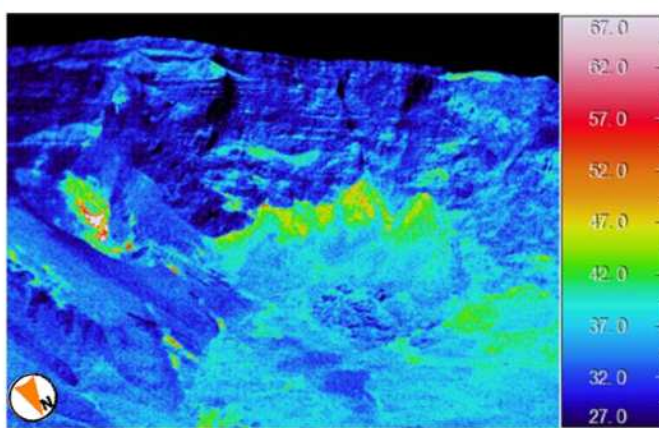
2015 年 7 月 14 日 14 時 56 分



2015 年 7 月 14 日 14 時 56 分



2015 年 5 月 22 日 10 時 31 分



2015 年 5 月 22 日 10 時 40 分

図 3 三宅島 赤外熱映像装置¹⁾による山頂火口の地表面温度分布
前回の観測（2015 年 5 月 22 日実施）と比べ、火口内の地形及び高温領域の分布に特段の変化は認められません。

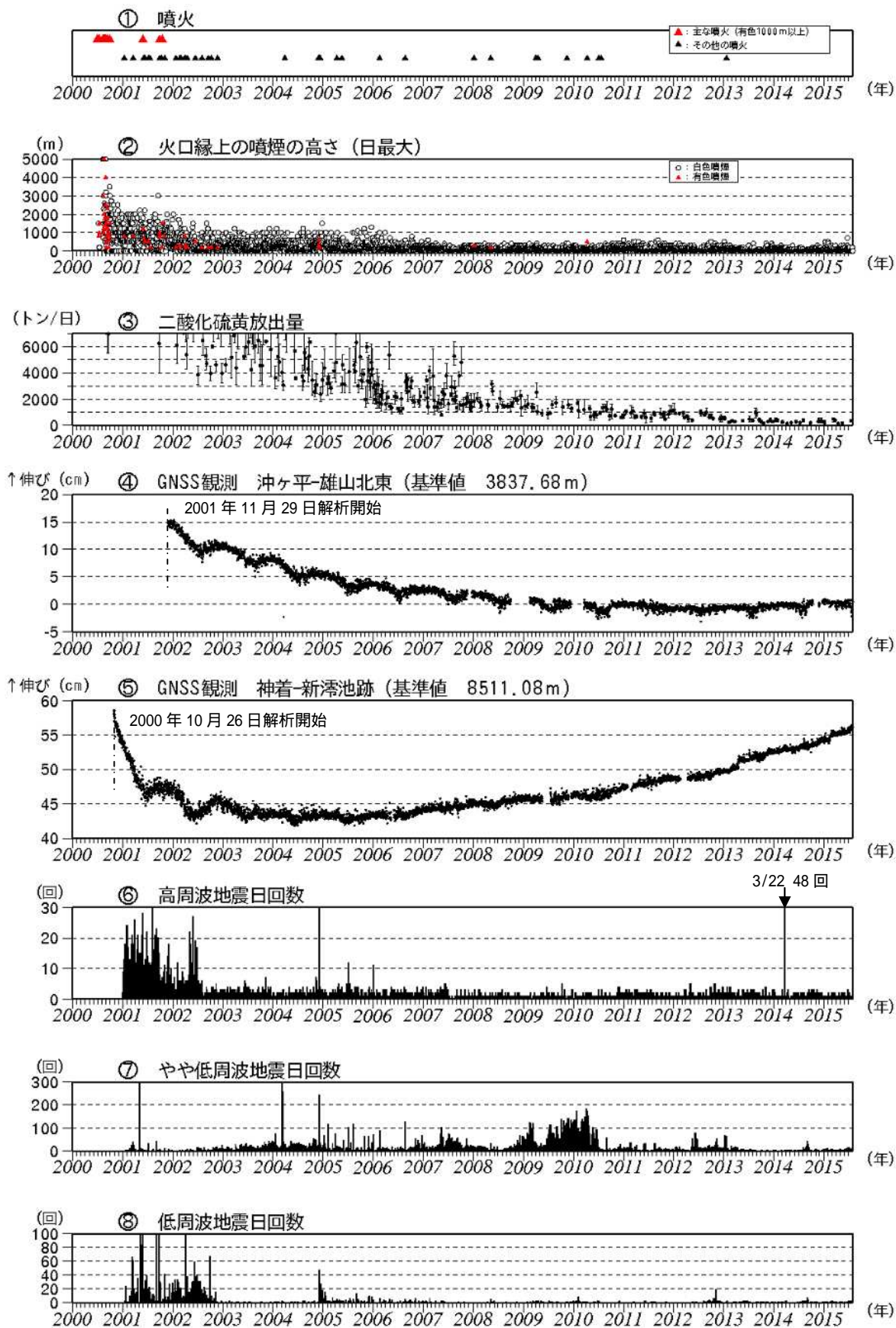


図 4 三宅島 火山活動経過図（2000 年 1 月 1 日～2015 年 7 月 31 日）

図の説明は次ページに掲載しています。

- ・ は、2005 年 11 月まで、海上保安庁、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、東京消防庁及び警視庁の協力を得て作成しています。また、2000 年から 2004 年にかけては一部のデータがスケールオーバーしています。
 - ・ 及び の 2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。及び の基線は図 8 (観測点配置図) の 及び にそれぞれ対応します。グラフの空白部分は欠測を示します。
 - ・ 、及び は、地震の種類別(図 7 参照)に計数を開始した 2001 年 1 月 1 日からのデータを掲載しています。
- * 火山性地震の計数基準を変更しました。
 2012 年 7 月まで：雄山北東の上下動成分で最大振幅 12 $\mu\text{m/s}$ 以上
 2012 年 8 月～11 月：雄山南西の上下動成分で最大振幅 5.5 $\mu\text{m/s}$ 以上
 2012 年 12 月～：雄山南西の上下動成分で最大振幅 6.0 $\mu\text{m/s}$ 以上

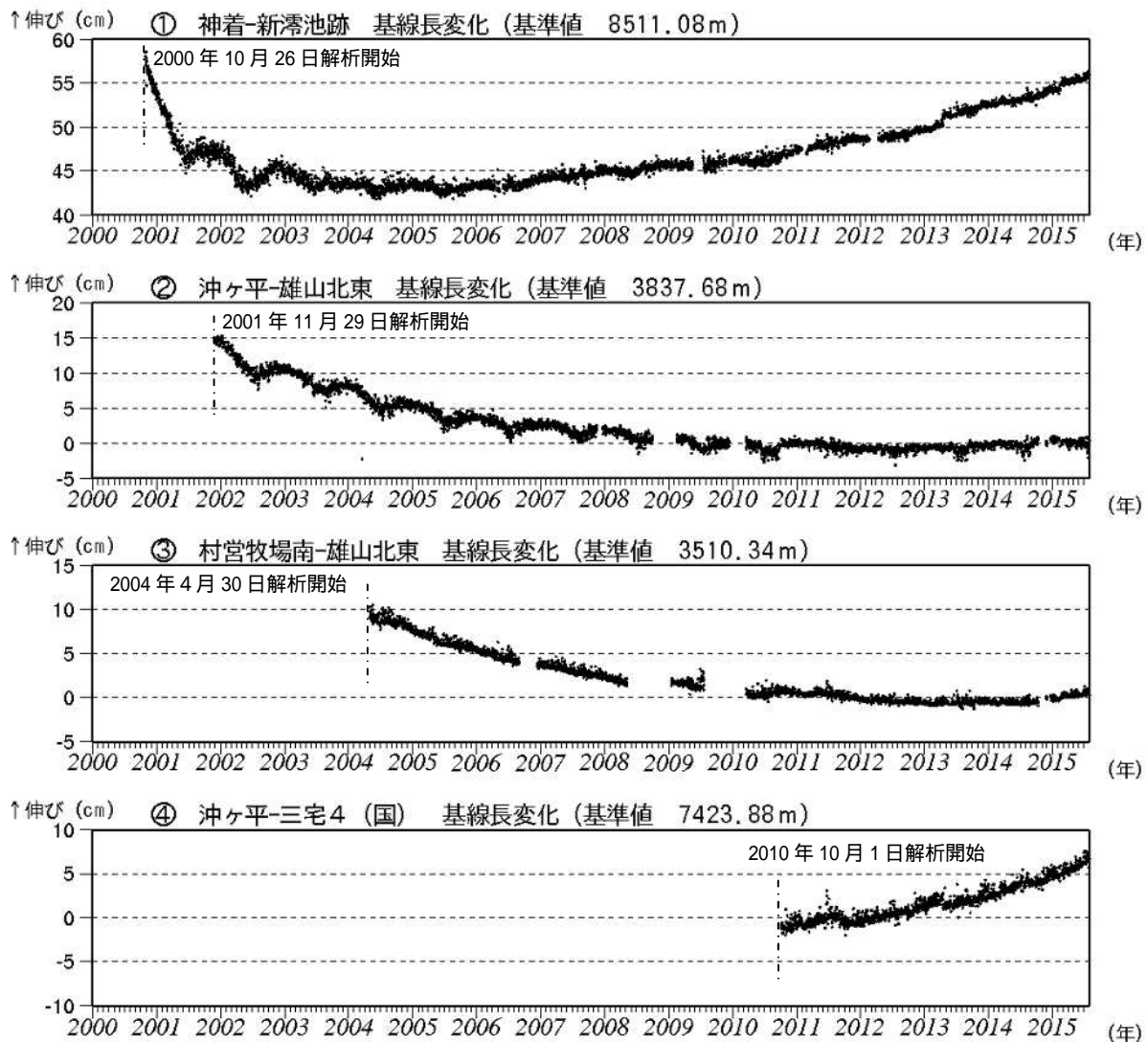


図 5 三宅島 GNSS 連続観測結果(2000 年 1 月 1 日～2015 年 7 月 31 日) (国): 国土地理院
 ・基線 ~ は図 8 (観測点配置図) の ~ にそれぞれ対応します。
 ・グラフの空白部分は欠測を示します。
 ・2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。

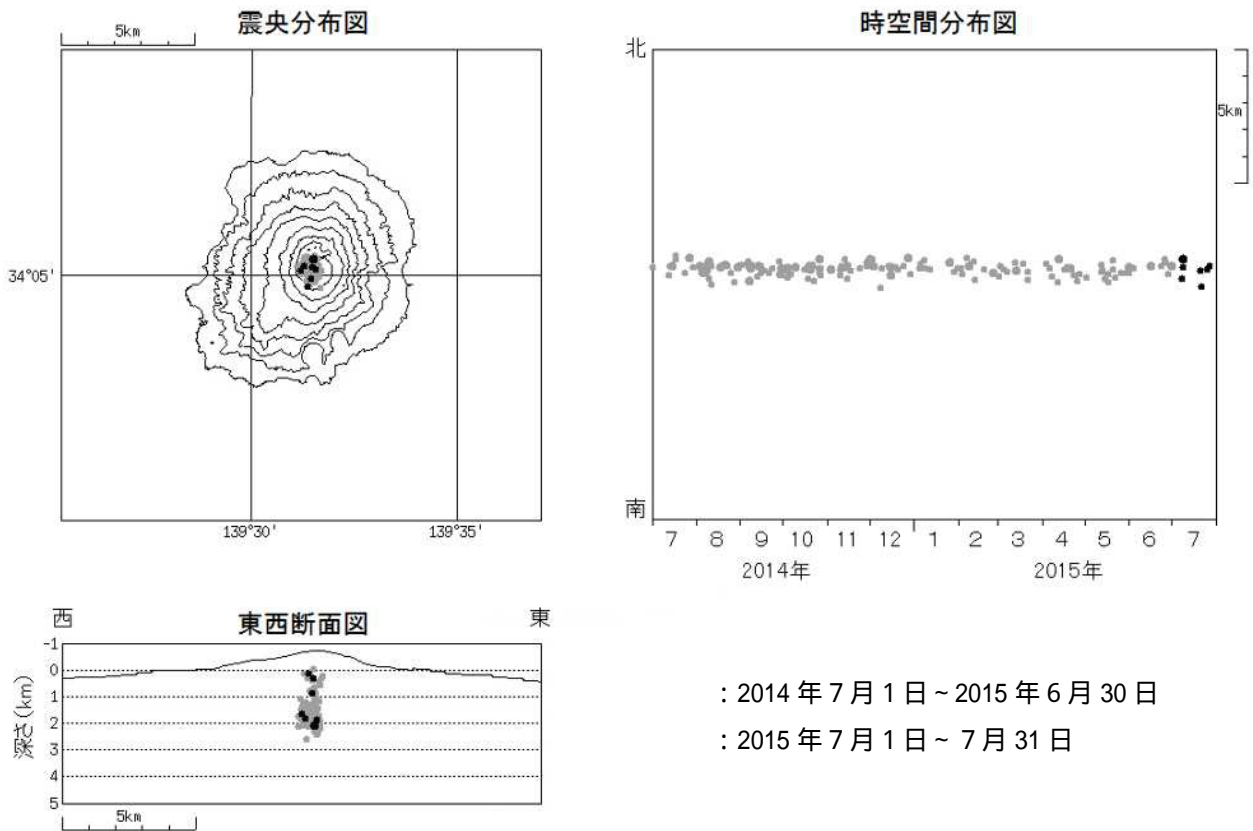


図6 三宅島 震源分布図(2014年7月1日～2015年7月31日)

表1 三宅島 2015年7月の火山活動状況

7月	噴火回数	火山性地震回数 ³⁾			微動回数	噴煙の状況 ⁴⁾		備考
		高周波地震	やや低周波地震	低周波地震		日最高(m)	噴煙量	
1日	0	0	11	2	0	×	×	
2日	0	0	16	1	0	×	×	
3日	0	0	10	0	0	×	×	
4日	0	0	13	1	0	200	1	
5日	0	0	11	0	0	×	×	
6日	0	0	14	0	0	×	×	
7日	0	1	12	2	0	×	×	
8日	0	2	5	1	0	200	1	
9日	0	0	4	0	0	×	×	
10日	0	0	3	0	0	×	×	
11日	0	0	2	0	0	×	×	
12日	0	0	2	0	0	×	×	
13日	0	0	2	2	0	×	×	
14日	0	0	6	2	0	×	×	
15日	0	0	5	0	0	×	×	
16日	0	0	0	0	0	×	×	
17日	0	0	4	0	0	×	×	
18日	0	0	1	0	0	×	×	
19日	0	0	2	0	0	×	×	
20日	0	1	0	0	0	×	×	
21日	0	0	3	0	0	0	0	二酸化硫黄放出量:平均400トン/日
22日	0	0	3	0	0	0	0	
23日	0	0	10	0	0	×	×	
24日	0	0	4	2	0	×	×	
25日	0	0	2	0	0	×	×	
26日	0	1	5	1	0	×	×	
27日	0	1	3	0	0	×	×	
28日	0	0	6	1	0	0	0	
29日	0	0	3	0	0	×	×	
30日	0	1	8	0	0	200	1	
31日	0	0	7	0	0	0	0	
合計	0	7	177	15	0			

3) 火山性地震の計数基準は雄山南西で最大振幅6.0μm/s以上、S-P時間3秒以内です。
火山性地震の種類は図7のとおりです。

4) 噴煙の高さ及び噴煙量は定時観測(09時・15時)の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。
1:極めて少量 2:少量 3:中量 4:やや多量 5:多量 6:極めて多量
7:噴煙量6以上の大噴火で、噴煙が山体を覆う位に多く噴煙の高さは成層圏まで達したと思われるもの
-:噴煙なし x:不明

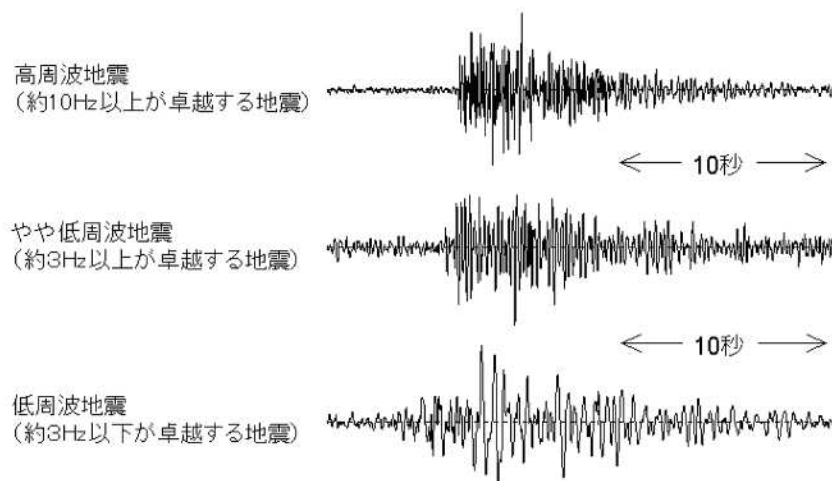
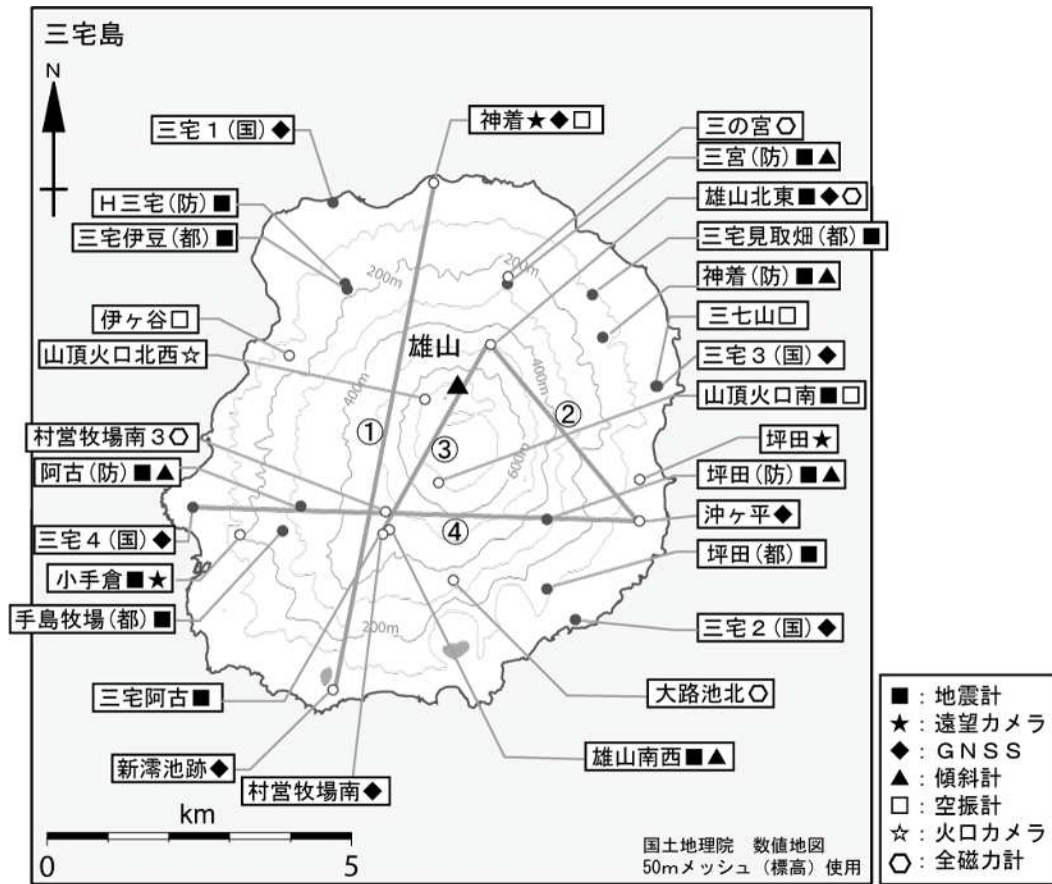


図7 三宅島 主に発生している火山性地震の特徴と波形例



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(都): 東京都

図8 三宅島 観測点配置図

・ は図4のGNSS基線 にそれぞれ対応します。また、 ~ は図5のGNSS基線 ~ にそれぞれ対応します。